

※ ホームページ等で公表します。(様式 1)

立教 S F R - 在外 - 報告

立教大学学術推進特別重点資金（立教 S F R）
在外研究
2015年度研究成果報告書

研究代表者	所属部局・職		氏 名	
	文学部教授		井出 万秀 印	
研究課題	15世紀および16世紀における改革都市法における名詞化文体－その法制史的背景			
全研修期間	2015 年 10 月 15 日 ～ 2016 年 3 月 22 日（160 日間）			
経 費	年度	SFR 申請額	所属学部からの補助額	SFR 助成額
	2014 年度	円	円	円
	2015 年度	1,360,010 円	600,000 円	760,010 円
主な滞在国 及び 研究機関名	国 名	研究機関名		
	ドイツ	フランクフルト大学法学部		
研究成果の概要（図・グラフは使用しないこと）				
<p>1484 年出版のニュルンベルク都市法，および 1564 年全面改訂出版のニュルンベルク都市法の双方を分析テキストとして特定した。それぞれの版の伝承をニュルンベルクの市立図書館およびゲルマン国立博物館図書館において確認し，1484 年版都市法は，1503 年および 1522 年に内容はほぼ同じままで目次が追加された改訂版が出版されていることが確認された。1484 年版とその改訂版ではいかに法律条項のレファレンスを容易にするかに工夫が凝らされていることが前書き，追加目次などから推測される。1564 年全面改訂版については，1595 年に増刷され，1755 年にオクターブ版で増刷されていることが確認された。1564 年版は 1484 年版とは条項に重なる部分があるものの，基本的にはまったく新しい版であり，1484 年版の踏襲ではないことも確認された。この結果から，1564 年の全面改訂版の出版にあたっては，条項の読みやすさの改善がひとつの大きな目的として明言されており，1484 年版と 1564 年版のそれぞれの文体の分析から，1564 年版の文体（統語構造）がどのように 1484 年版と異なっているかを明らかにすることにより，テキスト理解を容易にする統語構造がどのようなものであるかを特定することが可能となった。</p>				

研究成果の概要 (つづき)

目下、名詞化文体を中心に双方のテキストの統語分析を行っている段階であるが、現段階ではつきりしている点は、1) 現代ドイツ語名詞化文体のルーツとも言うべき「多肢名詞句」(3 肢以上) は 1484 年版ではかなり多く用いられ、名詞句の核となる名詞に 2 格付加語が連続して掛かる「二重 2 格付加語」、3 格付加語など、現代ドイツ語では不可能な構造も観察される一方、現代ドイツ語とまったく同じ構造も存在し、名詞句の内部統語構造に揺れが見られる。2) 1564 年全面改訂版ではこのような多肢名詞句がほとんど使用されず、文相当の名詞句はほとんどが 2 肢からなり、最高でも 3 肢に抑えられている、「多肢化緩和」が特徴的である。3) この「多肢化緩和」と並行して、1564 年版では、「多重副文 (Hypotaxe)」の回避、「上位文への zu 不定詞句内包」などの現象が顕著であり、名詞句どうしを前置詞や動詞によってひとつの文へと結びつける「名詞句ブロック構造」がより際立っていることが特徴として観察される。

名詞化文体、つまり、文相当の名詞句の多様は 19 世紀および 20 世紀のドイツ語に特徴的な現象であると一般には言われているが、今回の研究からは、この名詞化文体はすでに 15 世紀にそのルーツを求めることができ、理解難易度という点から使用が控えられるようになったことが確認される。これはドイツ語史研究にとっては、従来からの定説の修正を求める実証的成果である。また、ドイツ語における言語変化は、言語構造上潜在的に可能な諸特徴が、テキストジャンルやコミュニケーション意図に応じて異なった形で際立ち、踏襲されていることによって定着するというモデルが考え得ることが提案される。

キーワード (研究内容をよく表しているものを 5 項目で記入)

〔名詞化文体〕〔多肢名詞句〕〔二重 2 格付加語〕〔3 格付加語〕〔zu 不定詞句上位文内包〕

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

ドイツ学術交流会 (DAAD) が支援するボン大学、ソウル国立大学、立教大学の間での GIP (Germanistische Institutionspartnerschaft ドイツ研究機関パートナーシップ) プログラムの一環で、2016 年 5 月 10 日 (火) にボン大学において、今回の研究成果を「名詞化文体のルーツとしての法律テキスト—1484 年ニュルンベルク都市法より」というタイトルのもと講演発表が予定されている。